

I

【出題のねらい】

題材となっているのは、イギリスにおける地域の公共図書館の現状や重要性に関する新聞記事である。誰もが知識にアクセスできる公共図書館は、生涯を通じた学びにおいて重要である。それだけでなく、本文でも触れられている通り、司書の力も借りながら情報にアクセスできる公共図書館には社会的インフラストラクチャーとしての役割も備わっている。また、自宅でもなく勤務先や学校でもない居場所としての意義もある。地域に図書館があり、そこに公共の予算が使われるということについて、大学で学びを深めようと考えている受験生に考えてもらい、その考えを適切に表現することができるかを見ることが大きなねらいであった。本文は利用者の声を個別に紹介していく形で展開されており、その構成に留意しながら正しく文意を捉えることができるかも問われている。

問1では本文の個別の箇所について内容の説明を求める小問が2題用意されている。(1)については、書店と異なる図書館特有の性質として、本との「偶然の出会い」がもたらされるという利用者の声が表示されていることが理解できていればよい。(2)については、やはりひとりの利用者の話に紐付ける形で、(視力が弱いなどの理由で)学校での学習が困難な人々にとっての図書館の意義が表示されていることを読み取ればよい。問2(1)も内容理解に関するもので、図書館が本の扱いにとどまらず社会福祉を提供する場でもあるということを、下線部前後から適切に読み取ることが求められている。(2)については前述のような地域の公共図書館の存在意義について自身の考えを明瞭かつ説得力をもって行えるかどうかを見ることがねらいであった。「具体的に」という指示がある通り、個別の事例や経験などを具体的に示すことが望ましい。

【講評】

問1 (1) おおむねよくできていた。散見した誤りとして、that mainly promote new titles ... という関係詞節が直前の bookshops でなく、さらに前に置かれている libraries を修飾していると誤解しているものがあつた。関係詞節は直前の名詞(句)を修飾するのが通例であり、この箇所は文脈から見ても bookshops を修飾していると見抜けるとよい。関係詞節のみならず、日頃から文法に留意して文構造を適切に理解して読めるよう気を付けるとよいだろう。

(2) おおむねよくできていた。ここでの focus は「(視力的に目の)焦点を当てる」という意味で使われているが、「物事に集中する」という意味であると誤読し、視覚障害について理解できていない答案がいくつか見られた。文脈を押さえることが必要である。

問2 (1) 下線部までの文脈、特に直前の段落を適切に読めていたかで大きく分かれた印象である。指示語 it の内容が「図書館」であることについても、文脈が取れていない答案では「予算削減」を指していると誤読し、結果的につじつまの合わない内容となっているものも見られた。

(2) 現代社会における地域の公共図書館の意義についての考えを論じることが問われている。答案の傾向としては、ひとつの点について考察するよりも、複数の意義を列挙する形で論じたものが比較的多かった。字数を考慮すれば、多くてもふたつの点に絞った方が内容が深く論じられ説得力が出ただろう。公共図書館の意義として挙げられていたものとして、誰もが無料で知識や情報にアクセスできる公共性や、学習、読書、思考に集中できる静かな環境、本を通じて子どもから高齢者までが交流できる

コミュニティーの存在、インターネットの検索では得られない本や知識との偶然の出会いによる知見の広がり、そして地域の資料の充実、継承などがあつた。その中でも、司書との対話を通じて自分の視野が広がった経験や読み聞かせの体験など、日常的に図書館を活用していることが窺われる答案もあり、記述がより具体的で説得力があつた。本の利用にまったく言及せず、リラックスできる憩いの場としての利便性のみを図書館の意義としている答案も見られた。

Ⅱ

【出題のねらい】

英語が嫌いな中学生に対して、英語をどのように学ばよいかについて助言することが求められている問題である。指示文の内容を理解したうえで、自分の考えについて相手にわかりやすく伝える表現力を見た。具体的な内容自体は問わないが、自身の英語学習においても、他人に対してどのように教えるかという観点はとても重要であり、このことを考えることで自身の学習の目標設定や学習方法も効果的なものになる。逆に言えば、本問への答案には解答者の学習姿勢や方法が表れる。それを見ることもねらいとした。

【講評】

評価の基準としては、内容の一貫性、構成力、文法、語彙、綴りの正確さが中心的なものとなる。英語学習の方法を示したものや英語の重要性を述べて説得しようとしたものが多かった。英語嫌いの中学生在が対象であることを踏まえ、相手の状況や心情を理解し、共感を示したうえで具体的な助言を述べ、最後に励ましの言葉を添えるなど構成が巧みで秀逸な答案もあつた。適切な文法と語彙の選択、また構成としても文章の流れが一貫していて読みやすい答案が多く見られたものの、綴りのミスが散見したことが全体の傾向として指摘できる。“grammer” “essey” “tierd” “boared” “grobal” “memolize” など、基本的な単語でも誤りが見られたので、日常的な学習から正しい綴りも大切にする姿勢が望ましい。